

『キリスト教学校教育同盟百年史紀要』創刊号

(同百年史編纂委員会編、二〇〇三年六月、一五一頁)

大江 満 (立教学院史資料センター学術調査員)

二〇〇〇年六月に開催されたキリスト教学校教育同盟(以下、同盟)の第八八回総会は、『キリスト教学校教育同盟百年史』(以下、『百年史』)の刊行を決議した。翌年九月の第一回編纂委員会では、資料調査、編纂作業の準備・実務を関東地区の編纂委員が担当するという基本方針が定められ、二〇〇二年の第二回編纂委員会は、『百年史』は本文編と資料編とし、同盟という組織の歴史を記述し、同盟と加盟校の関係を描き、論文集ではなく、編纂委員による共同研究の成果を結実させる、という編集方針を決定した。こうした方針のもと、資料の散逸がはげしい戦前・戦中の関係資料を中心にした調査と研究項目の選定がおこなわれ、その最初の研究成果として刊行されたのが、ここに紹介する『百年史紀要』(以下、『紀要』)である。この「編集作業の中間報告」としての意味合いをもつ『紀要』の中心となる内容は、三論文と二つの史料紹介から構成されている。

大森秀子(以下、敬称略)論文「基督教女子教育会とキリスト教連合女子大学運動」は、一九一八年に超教派

キリスト教連合女子大学として設立された東京女子大学への構想と運動の経過を論述したものである。とくに、一九一三年発足と推測され二二年に男子の「基督教々同盟会」と合同して解散する基督教女子教育会が果たした役割をはじめて明らかにし、その加盟校として、専門学校や同程度の専門科と高等科をもっていた伝統ある教派立のキリスト教主義女学校がそれぞれの専門科や高等科を「苦渋に満ちた調整」のもとに廃して、この連合女子大学のために協力した実情に論及している。

大西晴樹論文「キリスト教大学設立運動と教育同盟」は、「キリスト教教育同盟会」(以下、教育同盟)の活動と密接な関連があった男子の超教派合同キリスト教大学の設立運動を、井深梶之助(教育同盟会長)を中心とする一九〇三年ころから一五年ころまでの第一次運動と、田川大吉郎(教育同盟理事長)を中心とする一六年から三九年までの第二次運動に分けて、論述したものである。とくに従来等閑視されてきた第二次運動への論及は新しい研究成果である。また当論文は、この大学設立運動を一九〇九年の開教五十年記念会、翌年のエディンバラ世界宣教大会以降の国内外のエキュメニカル(教会一致)運動との関連において照射することで、一八九九年の文部省訓令第一二号問題へのキリスト教主義諸学校の結末を、一九一〇年の教育同盟設立の起源としてきた同盟内

の従来の説に再考をうながす内容にもなっている。

辻直人論文「基督教教育同盟会夏季学校の開催をめぐる」は、現在でも慣例行事であるが、戦前の一九四三年までに計一五回開催された「基督教教育同盟会（以下、教育同盟会）夏季学校」（以下、夏季学校）の内容を考察したものである。聖書講習会として二七年に発足した第一回夏季学校を評価しようとしない、先行研究を批判し、第一回開催までの経緯として、教育同盟会も加盟団体のひとつとなった二三年創立の日本基督教連盟によるエキユメニカル運動との関連を指摘するとともに、回を重ねるごとに教育同盟会の総会とならぶ一大イベントとなっていた夏季学校が、総会よりも現場の声が反映されやすいだけに時局の流れに敏感に反応し、戦時下には体制に同調していた動向にも言及している。

樽松かほる、高瀬幸恵による史料紹介「同志社所蔵の『同盟』関係資料」は、一九一〇年の基督教教育同盟（以下、同盟）設立から敗戦までの最初の約三分の一の時期の資料が弱いという課題に 대응べく、もともと大量に関係資料を所蔵している同志社「社史資料室」での調査をもとに、①限定したテーマの関連資料を丁寧な解題を付して紹介し、②同志社で収集した資料を目録化したものである。①は、大正後期から昭和前期にかけて学制改革論が提唱されるなか、同盟も当時のホットな話題

であった学制改革案の起草に意欲的に取り組んでいたという新しい事実を、田川大吉郎（同盟理事長）の学制改革草案、その修正意見を求める湯浅八郎（同志社総長）宛同盟書簡、および湯浅の回答書簡という一九三六年の三資料を掲載して指摘している。②の資料目録のなかでは、戦中の同盟とアジアとの関係、宣教師らの帰国問題、「夏季練成会」関係の資料などが興味深い。

塩野和夫による史料紹介「キリスト教学校教育同盟西南地区関連史料(1)」は、沖縄県、山口県、九州の一二のキリスト教系学校法人からなる西南地区の六史料群のうち、三史料群（一九八八年～二〇〇二年）を、分類して紹介したものである。

大森論文および大西論文の新しい研究視野、辻論文の先行研究批判、樽松・高瀬史料紹介の新しい事実発掘など、いずれもこれまでの同盟史を補う内容である。そこには、指摘した同盟起源の説を、史料をふまえて覆そうという研究意欲が基底にあり、『百年史』刊行に向けての期待を膨らませるものとなっている。

戦前の同盟の呼称が「基督教々育同盟会」「キリスト教育同盟会」「基督教教育同盟会」と、三論文三様の表記になっている用語の不統一は、使用資料や時代の相違もあるが、今後の検討課題のひとつであろう。